

# 縄文の森から 第14号 目次

---

後期旧石器時代前半期における種子島地域出土石器の残存デンプン分析  
寒川 朋枝・・・3

深浦式土器に見る文様割付の時期的変化について ―細山田段遺跡を中心に―  
相良 典隆, 森えりこ・・・11

鹿児島県における弥生時代～古墳時代初頭の墓の基礎的な研究  
-覆石墓・葺石墳・配石墓, 壺棺墓・甕棺墓, 石棺墓, 木棺墓, 支石墓の集成と考察-  
湯場崎 辰巳・・・20

近世鹿児島城下町についての考察  
阿比留 士朗・・・30

令和2年度年報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35



# 鹿児島県における弥生時代～古墳時代初頭の墓の基礎的な研究

## —覆石墓・葺石墓・配石墓，壺棺墓・甕棺墓，石棺墓，木棺墓，支石墓の集成と考察—

湯場崎 辰巳

Basic research on tombs from the Yayoi period to the beginning of the Kofun period

in Kagoshima Prefecture.

Tatsumi Yubasaki

### 要旨

湯場崎 2021 と併せて、弥生時代～古墳時代初頭の墓の集成を行い、考察と分析を行った。そこで、現在鹿児島県本土で確認されている墓は 257 基あり、8つの形態の墓があることが分かった。また、従来から指摘されている各形態の墓が弥生時代中期から後期にかけて多く展開することや、古墳時代の墓制へと繋がることを再確認した。

**キーワード** 土坑墓，横口式土坑墓，周溝墓，覆石墓・葺石墓・配石墓，壺棺墓・甕棺墓，石棺墓，木棺墓，支石墓

### 1 はじめに

筆者は以前、鹿児島県の弥生時代～古墳時代初頭の墓坑を時期・規格などの点から、3つの形態の①土坑墓，②横口式土坑墓，③周溝墓について分析・考察を行った（湯場崎 2021）。その際に、他の形態の墓である覆石墓・葺石墓・配石墓（註1），壺棺墓・甕棺墓，石棺墓，木棺墓，支石墓についても集成を行った。本稿では、その集成の分析・考察を行い、さらに全形態の墓を時期別に考察を行った。

### 2 研究史

鹿児島県の弥生時代～古墳時代初頭の墓については、中園聡氏と中村直子氏の論考がある。それらについては、湯場崎 2021 を参照して欲しい。その他の論考として、報告書や郷土史に論述しているものを述べたい。

河口貞徳氏は、出水市高尾野町堂前遺跡の調査成果を報告する中で、土坑墓が弥生時代終末の埋葬形態を示すものとし、続いて同地域では途切れることなく、地下式板石積石室墓（註2）の埋葬が行われ、土坑墓が地下式板石積石室墓の祖型であると述べている。また、土坑墓から長方形石室へ、さらに円形石室へと発展したものと推察している（河口 1971）。

南さつま市金峰町下小路遺跡の調査報告では、合口甕棺墓の南限であり、中九州の甕棺が在地製を帯びるのに対して、貝輪の素材・型式・着装方法や須久式土器の存在などから、北部九州の甕棺葬法が直接伝播した可能性を指摘している（河口 1976）。

池水寛治氏は、堂前遺跡を総括する中で、地下式板石積石室墓群に見られる免田式土器と成川式土器の関係から、地下式板石積石室墓の発生と薩摩隼人の性格を考える上で重要であると述べている（高尾野町教育委員会 1973）。

青崎和憲氏は、伊佐市菱刈町前畑遺跡のまとめで、箱式木棺墓，組合箱式木棺墓，組合箱式石棺墓，土坑墓を分類している。墓の上部に板石が認められ、土坑中心部に傾斜していることや、重複関係が見られないこと、主軸方向がほぼ一定方向であることから、板石が墓標である可能性を指摘している。当該遺跡の組合箱石棺墓は不定形でひずみが激しく弥生時代終末の埋葬形態を示し、古墳時代の地下式板石積石室墓発生の過渡期的な様相の可能性を指摘している。また、当該地域に、多くの形態の墓があるのは、北部九州の影響を受けていると捉えている（菱刈町教育委員会 1983）。

西健一郎氏は、肥後から出水平野・大口盆地における弥生時代・古墳時代の墳墓の研究を行っている。弥生時代後期の堂前遺跡や前畑遺跡における石蓋土坑墓から板石積土坑墓・箱式石棺等へ、平面形が長方形の石室から楕円形の石室へ、さらに円形石室への変化が、古墳時代に北薩地域で見られる地下式板石積石室墓へと変化していくことを述べている（西 2002）。

### 3 研究の方法

弥生時代～古墳時代初頭の墓の集成にあたっては、鹿児島県本土を対象とし、土器型式では高橋式土器から中津野式土器の範疇（註3）とした。

令和2年度までに刊行された鹿児島県の報告書等とともに、8つの墓の形態①土坑墓，②横口式土坑墓，③周溝墓，④覆石墓・葺石墓・配石墓，⑤壺棺墓・甕棺墓，⑥石棺墓，⑦木棺墓，⑧支石墓を集成した。本稿では、そのうち、前述した④～⑧の墓について記述する。なお、遺構名は報告書記載名、形状や規模・方位は報告書の報告にあるものを基本として集成している。

さらに、湯場崎 2021 と合わせて、全形態の墓の時期ごと（弥生時代前期・中期・後期～古墳時代初頭）の傾向

を検討し、考察を行った。

#### 4 遺跡の概要

鹿児島県本土の弥生時代～古墳時代初頭の墓が報告されている遺跡の調査概要について記述する。

##### (1) 下鶴遺跡

伊佐市大口に所在し、羽月川右岸の標高約171mの河岸段丘に立地する。縄文時代から近世に至る複合遺跡で、弥生時代の土坑群は52基報告されている。形状などから墓の可能性が高く、そのうち1基から武器形青銅器の1種である銅戈先端部が出土している。時期は入来Ⅱ式土器が中心に出土しており、弥生時代中期前葉～中葉の可能性が高い。土坑墓は素掘りの土坑で、長方形を呈しているものが多く、床面に木棺痕の可能性のある溝状の堀込が報告されている土坑もある。

##### (2) 前畑遺跡

伊佐市菱刈町に所在し、重留川右岸の標高176mの河岸段丘に立地する。重留川との比高差は約4mである。弥生時代の墓坑は23基報告され、組合箱式石棺墓4基、木棺墓8基、土坑墓11基に分類されている。22号土坑墓からは、鉄鏃1本が出土しているが、副葬品は乏しい。時期は長頸壺の免田式土器が土坑墓内や周辺から出土しており、弥生時代後期～古墳時代初頭の可能性が高い。

##### (3) 堂前遺跡

出水市高野尾町に所在し、出水平野南西部の東に高尾野川・西に野田川に挟まれた標高約40mの洪積扇状地の縁辺部に位置する。昭和46・47年の2次に渡って調査され、古墳時代の地下式板石積石室墓3基が報告されており、それに先立つ時代として弥生時代中期後葉から古墳時代にかけての覆石墓などが19基報告されている。土坑が認められないものや、土坑の中に石を並べて置いたものなどを分類して報告している。

##### (4) 堂園遺跡A地点

南九州市川辺町に所在し、神殿川と万之瀬川に挟まれた標高約120mの鳴野原台地中央部に位置する。土坑墓が64基発見され、県内では類例の少ない墓域として注目される。弥生時代後期から古墳時代初頭の墓とされ、主に中津野式土器が出土している。

##### (5) 下小路遺跡

南さつま市金峰町に所在し、万之瀬川との支流の堀川との合流点から北北東1kmの地点、標高6mの砂丘の内側に続くシラス台地に位置する。岡崎敬氏の昭和50年度科学研究助成金による、「東アジアにおける九州弥生墓制の研究」の一環として調査を行っている。遺跡には巨石があり支石墓と推定されたが、遺構は消滅している。隣接して、須玖式土器の合口甕棺墓が発見されている。

##### (6) 高橋遺跡

南さつま市金峰町に所在し、下小路遺跡と同じシラス

台地の標高約8mに位置している。下小路遺跡からは北に200m、高橋貝塚からは北へ400mの所に位置している。平成18年に鹿児島国際大学による調査が行われ、弥生時代中期の木棺墓3基が報告されている。なお、高橋貝塚の玉手神社内に巨石があり、支石墓の可能性があると指摘されている。

##### (7) 尾ヶ原遺跡

南さつま市金峰町に所在し、北側標高80mの独立丘陵から南側へと傾斜し、南側は標高30mの平坦面が広がり、東・南・西側には谷が入り込む舌状台地に位置する。弥生時代の遺物は少ないが、黒髪式土器と須玖式土器の小児用合口壺棺が発見されている。

##### (8) 白寿遺跡

日置市吹上町に所在し、伊作川を北側に見下ろす標高約15mのシラス台地上に位置している。シラス採取に伴い、昭和53年に鹿児島県教育委員会が発掘調査した。また、河口貞徳氏、辻正徳氏らによって昭和50年・53年に調査が行われている。弥生時代前期末の壺棺墓と中期後半の甕棺墓が発見されている。台地上には大きな扁平な石もあることから、支石墓が存在した可能性が指摘されている。

##### (9) 入来遺跡

日置市吹上町に所在し、北東に舌状に張り出した標高20mほどのシラス台地に位置する。遺跡は吹上高校社会研究部によって発見され、昭和44年・昭和45年・昭和50年の三次に渡る調査が行われている。入来式土器の標式遺跡で、弥生前期後半の時期にU字溝が作られ、続いて弥生中期前半に台地先端部を横断してV字溝が作られ、内側に円形の貯蔵穴が設置された。支石墓と合口甕棺墓があったと推定されている。

##### (10) 阿多貝塚

南さつま市金峰町に所在し、田布施平野の海岸線より内陸部に約3.7kmのところ、北西に突き出た標高約9m、幅約150mの舌状台地に位置する。縄文時代早期～前期の轟式土器（当初は阿多式土器）の出土が有名である。弥生時代では土坑に埋納された壺棺2基が報告されている。

##### (11) 松之尾遺跡

枕崎市に所在し、枕崎港の北側の標高約5mの砂丘上にある。発掘調査に伴い、数多くの土坑墓や立石が発見され、遺構・遺物等から、弥生時代終末期より古墳時代後期にかけて盛行した砂丘に立地する埋葬遺跡であること、この砂丘を使用した初現は、弥生時代中期に求められることなどが判明している。土坑墓は古墳時代後期(笹貫式)と報告され、立石は弥生時代中期と推定されている。

##### (12) 成川遺跡

指宿市に所在し、標高38～73mの丘陵が東へ張り出し

た尾根の先端部南斜面で、地層は池田湖火山灰の上に開闢岳火山灰が堆積してできている。昭和33年に文化財保護委員会（現：文化庁）、昭和55・56年には鹿児島県教育委員会が発掘調査を行っている。弥生時代中期後葉の祭祀遺跡が初現で、同時期の竪穴住居跡も発見されている。弥生時代後期には、祭祀遺構の西に隣接する約130㎡の地域に、T字状立石と弥生時代後期の甕棺墓、土壙墓が発見されている。本稿では、基数や個々の実態が不明のため、弥生時代後期から古墳時代初頭としてT字状立石、甕棺墓、土壙墓が報告されていることだけを記載する。

### (13) 南摺ヶ浜遺跡

指宿市に所在し、市街地の南端近くにあり、国指定史跡『指宿橋牟礼川包含地』の南側およそ500mの位置にある。遺跡の東側は急な崖で鹿児島湾に近接している。海岸は北から続く砂丘の端に辿り、これから南は岩礁性海岸となっている。西側から広く延びる扇状地の先端部に位置し、緩やかな丘の斜面に面している。弥生時代後期から古墳時代にかけては、壺棺墓16基、甕棺墓1基、円形周溝墓12基、土坑墓72基、立石（板石）25基を検出し、成川遺跡や松之尾遺跡などに次いで南薩地方特有の墓が発見されている。弥生時代後期から古墳時代初頭とされる大型隅丸方形状土坑墓、円形状土坑墓、円形周溝墓、甕棺墓・壺棺墓を集成の対象とした。

### (14) 永吉天神段遺跡

曾於郡大崎町に所在し、永吉台地の東側縁辺部に位置し、志布志湾から直線距離で約6kmの位置にある。持留川とその支流に、東側と南西側を挟まれた標高約35mの河岸段丘及び標高約50mの舌状台地上に立地する。弥生時代中期における集落域と墓域が同台地内で調査された県内初の事例である。

### (15) 京ノ峯遺跡

志布志市松山町に所在し、標高約170mの丘の最頂部を中心に長さ約300m、幅約100mの大きさの遺跡である。遺跡の南側に前谷遺跡が存在し、そのすぐ近くに湧水地もある。弥生時代の円形周溝墓・方形周溝墓が報告されており、周溝内部には人を埋葬した土坑があり、そのほとんどが東西方向を向いている。周溝墓周辺に死者を葬った時に儀式をしたと思われる土坑が確認されている。

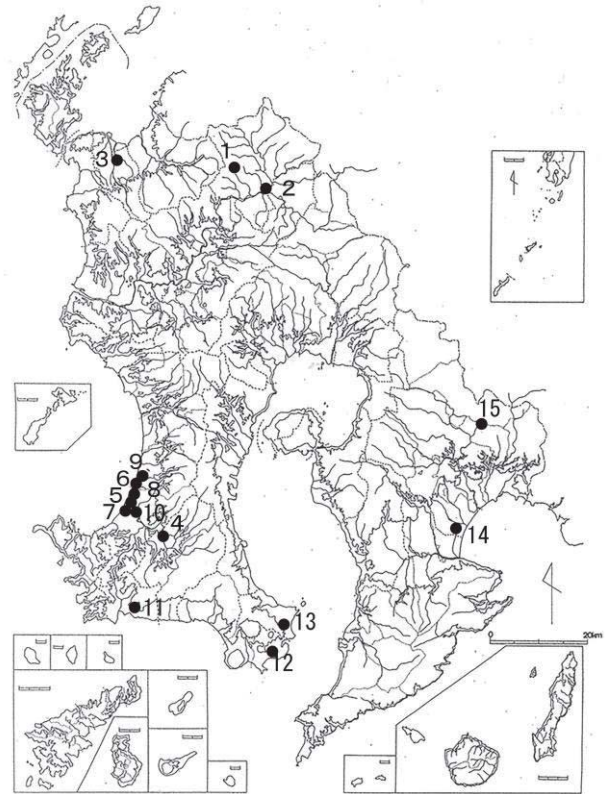
## 5 集成結果の考察

ここでは、弥生時代～古墳時代初頭の墓の報告をもとに、5形態の墓である④覆石墓・葺石墓・配石墓、⑤甕棺墓・壺棺墓、⑥石棺墓、⑦木棺墓、⑧支石墓の集成結果と考察を述べる。また、立石が報告されている事例も紹介する。

### (1) 甕棺墓・壺棺墓

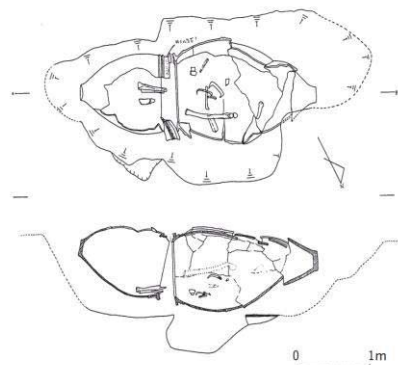
甕棺及び壺棺と報告されているものは、甕棺5基・壺

棺21基である。時期は、白寿遺跡の壺棺が弥生時代前期末、下鶴遺跡の土坑16号（壺棺）・白寿遺跡の甕棺・入来遺跡と下小路遺跡の合口甕棺、尾ヶ原遺跡の小児用合口壺棺が弥生時代中期後葉、阿多貝塚の壺棺2基と南摺ヶ浜遺跡の甕棺16基・甕棺1基は弥生時代後期から古墳時代初頭である。成川遺跡は甕棺の記載があるが、詳細不明である。また、南摺ヶ浜遺跡の5・8・13号壺棺は、成川式土器東原段階の土器が出土と記載があるが、報告書総括の時期分類に従って、中津野式土器の時期として集成している。



第1図 各遺跡位置図

- 1 下鶴遺跡 2 前畑遺跡 3 堂前遺跡 4 堂園遺跡A地点  
5 下小路遺跡 6 高橋遺跡 7 尾ヶ原遺跡 8 白寿遺跡  
9 入来遺跡 10 阿多貝塚 11 松之尾遺跡 12 成川遺跡  
13 南摺ヶ浜遺跡 14 永吉天神段遺跡 15 京ノ峯遺跡



第2図 下小路遺跡合口甕棺（縮尺は任意）

（河口貞徳・旭慶男・最所大輔 1976 から転写）

時期別の基数は、弥生時代前期末の壺棺 1 基、弥生時代中期後葉は甕棺 3 基・壺棺 2 基、弥生時代後期から古墳時代初頭は甕棺 1 基・壺棺 18 基、不明の甕棺 1 基である。なお、下甕島の大原・宮園遺跡で弥生時代後期から古墳時代初頭の壺棺 1 基が報告されている。

人骨が発見されたのは、下小路遺跡の合口甕棺（第 2 図）だけであり、2 個のゴホウラ製腹面貝輪をつけた成人骨の右腕が下甕から、下甕の口縁部からは大腿骨、上甕の口縁部近くに腓骨・脛骨および骨盤らしいものがあり、遺体は頭を下甕に挿入し仰臥屈葬の姿勢に埋葬したものとされている。

## （2） 覆石墓・配石墓・葺石土坑墓

堂前遺跡の 18 基が報告されている。内訳は覆石墓 15 基・配石墓 2 基（12・39 号）・葺石土坑墓 1 基（28 号）である。その中で、弥生時代中期としているものが 7 基（22・26・27・28・31・32・34 号）、弥生時代後期～古墳時代初頭とされるものが 11 基である。報告書のまとめでは、明瞭な土坑が認められないものが 25・26・27・31・36・38 号、楕円または浅い掘り込みがあるものが 21・30・33 号、土坑を有するものが 22・24・28・32・34・35・37・38・39 号としている。また、土坑の中に石を並べたり置いたりするもので分類を行っている。多様な形態を有しているが、報告書に実測図がないため、詳細は不明である。

種子島では、弥生時代終末～古墳時代初頭（中津野式土器）の覆石墓が多数報告されている。種子島の様相で、後述したい。

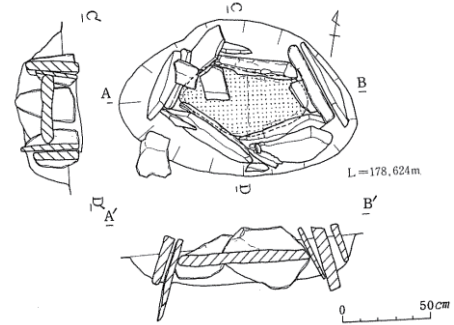
## （3） 石棺墓

弥生時代後期～古墳時代初頭の組合箱式石棺墓として、前畑遺跡の 4 基の報告がある。3 基は規模が小さく、小児用の可能性が指摘されている。形状は楕円形又は略正方形で、軸は東西方向である。22 号土坑墓（第 3 図）からは、副葬品として有茎長三角形の鉄鏃が出土している。軸は東西方向、形状は楕円形を呈しており、平面形が広く掘り込みが深いタイプが多い。そこに、板石を組み合わせて石棺を構築している。

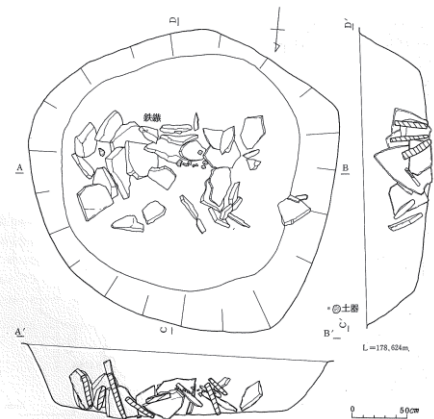
## （4） 木棺墓（第 4 図）

有機質のため、朽ちて木棺自体の出土はないが、報告書で木棺墓の可能性に言及しているものを集成している。土坑墓で報告されている永吉天神段遺跡や下鶴遺跡の例は除いている。弥生時代中期として高橋遺跡 3 基、弥生時代後期～古墳時代初頭として前畑遺跡 6 基が報告されている。木棺自体の出土はなく、小口板痕や側板痕から木棺墓の可能性を指摘している。弥生時代中期とされている高橋遺跡は、軸は東西方向で、隅丸長方形及び長方形で、長軸平均 164 cm・短軸 107 cm で、平面形が広く掘り込みは浅いタイプである。前畑遺跡は、軸は東西方向又は北西-南東で楕円形を呈しており、長軸平均 271 cm・

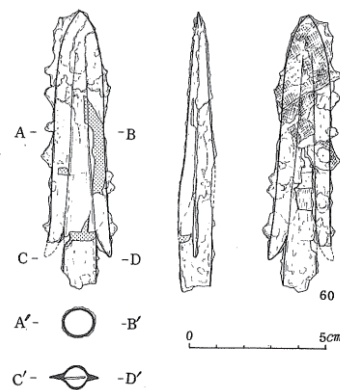
短軸平均 174 cm で、平面形が広く掘り込みが浅いタイプである。前畑遺跡の方が一回り大きい。なお、高橋遺跡は組合箱式木棺墓で、前畑遺跡の 1・2・7・18・20・21 号は箱式木棺墓を想定しており、2 段掘りに掘り込むものが多いのが特徴である。また、1 号は覆石を伴っている。



5号土坑墓

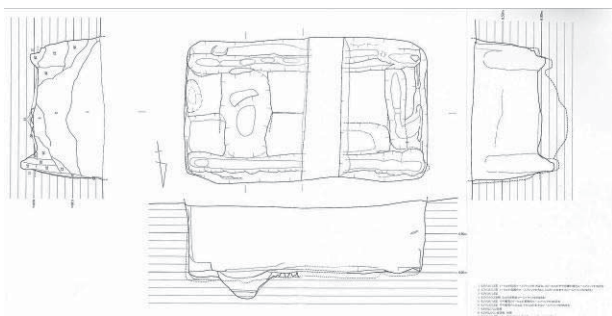


22号土坑墓

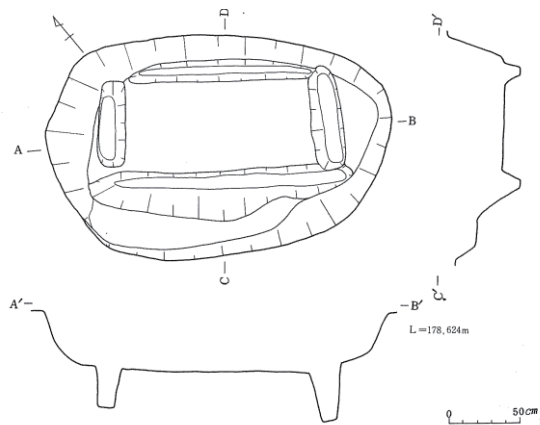


22号土坑墓出土 鉄鏃

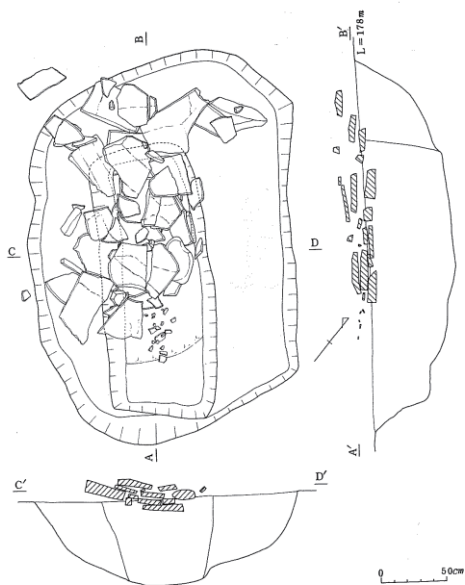
第3図 前畑遺跡石棺墓（縮尺任意）  
（菱刈町教育委員会 1983 から転写）



高橋遺跡 SK04



前畑遺跡 16号土墳墓



前畑遺跡 1号土墳墓

第4図 木棺墓 (縮尺任意)

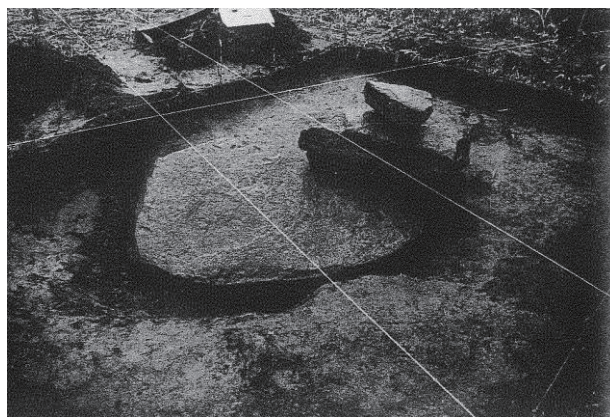
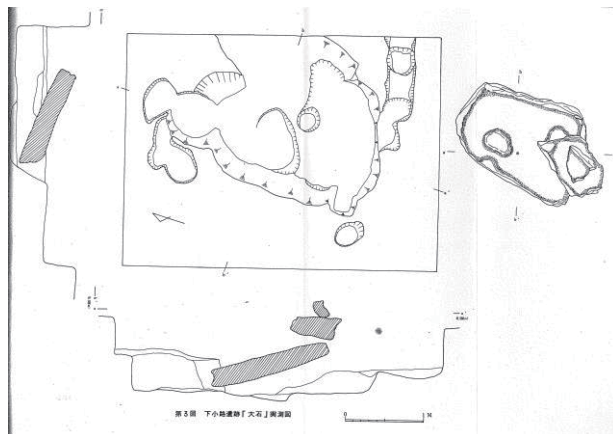
(鹿児島国際大学 2008・菱刈町教育委員会 1983 から転写)

### (5) 支石墓

巨石の存在から、支石墓の可能性のある遺跡を紹介する。

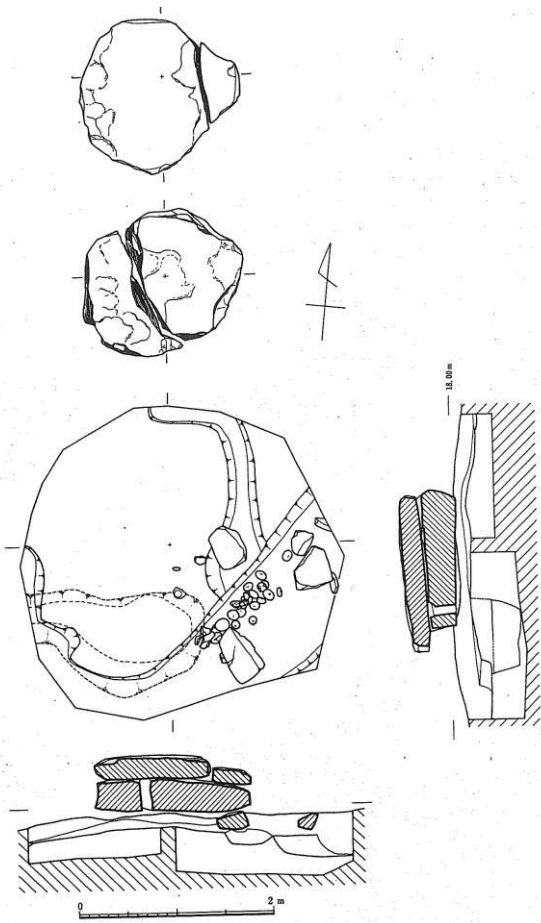
南さつま市金峰町の下小路遺跡(第5図)では、長さ170 cm・幅125 cm・厚さ30 cmで、復元形は全長223 cmを推定している。石材は凝灰岩で、側面全体に丹塗りの報告がされている。下層の調査を行っているが、攪乱を受けており、遺構等の発見には至っていない。原位置は保っていないが、石包丁や弥生土器の出土が報告されている。

日置市吹上町の入来遺跡(第6図)では、凝灰岩の2つの巨石が重なって報告されている。上の巨石は不整の円形で形が140~160 cm・厚さ20 cm前後、下の巨石は楕円形で長軸160 cm・短軸140 cm・厚さ30 cmである。下層の調査も行われているが、削平されており、耕作や道路の構築時に現在の位置に動かされたものと推定されている。また、近くの石塚遺跡でも子産石が支石墓の可能性として調査されているが否定されている。その他、白寿遺跡や高橋貝塚で、支石墓と関連する可能性がある巨石の存在が確認されている。



第5図 下小路遺跡 支石墓 (縮尺任意)

(河口貞徳・旭慶男・最所大輔 1976 から転写)

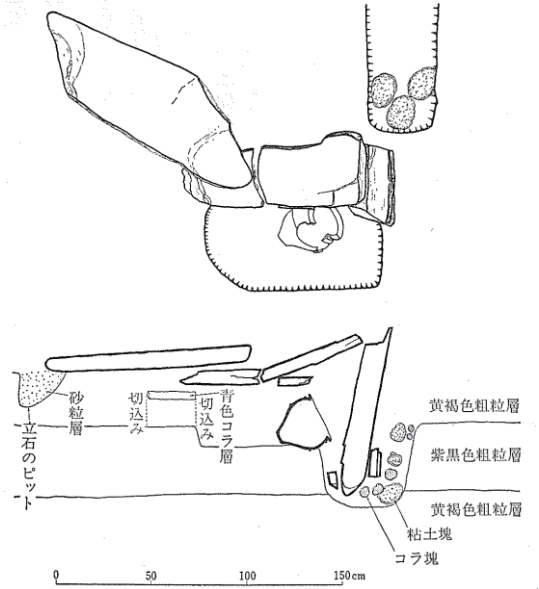


第6図 入来遺跡 大石 (縮尺任意)  
(河口貞徳・旭慶男・最所大輔 1976 から転写)

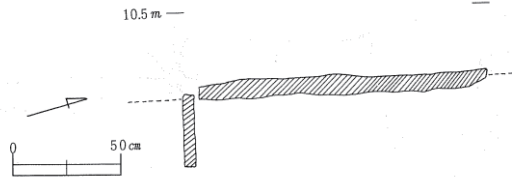
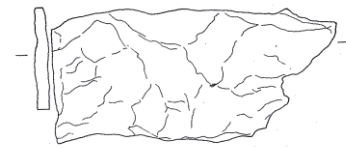
(6) 立石

墓ではないが立石の存在も報告されている。成川遺跡では、9基の立石が確認されているが、弥生時代中期の遺物が伴うものが2基、弥生時代後期の遺物を伴うものが1基である。Ⅶ号立石(第7図)は中期とされ、浅い土坑が掘り込まれ、丹塗研磨された甕形土器が口縁部を南に向けて配置されている。また、土器は底部直上付近に孔があり、口縁部が欠損している。松之尾遺跡では、

6基発見されているが、3基は原位置を留めていない可能性がある。残る3基の立石は、安山岩製の板石状の自然石を利用しているようである(第7図)。成川遺跡の類例や中期の土器分布状況と符合することから、弥生時代中期されており、配置や土器の出土・類例などから、祭祀遺構の可能性が指摘されている(中村2000)。



成川遺跡 Ⅶ号立石



松之尾遺跡 1号立石

7図 立石 (縮尺任意)

(文化庁1973・枕崎市教育委員会1981から転写)



## 6 種子島・甌島の様相

種子島は、弥生時代の埋葬跡が多く報告されており、本土以外の類例として紹介する。

弥生時代後期では、西之表市の横峯遺跡で周溝墓が報告されている。保存のために完掘されておらず、詳細は不明であるが、円形周溝墓で、径600cm・周溝幅100cm、主体部が検出されている。

弥生時代後期から古墳時代にかけては、海岸砂丘上に墓地を構築しており、その多くが覆石墓で、南種子町広田遺跡や中種子町鳥ノ峯遺跡等があげられる。特に広田遺跡は合葬を含む90か所の埋葬遺構や157体の人骨、貝輪などの貝製品が多量に出土している。それ以外にも、西之表市伊勢神社や中種子町下田、南種子町島間仲之町遺跡も、埋葬跡の可能性が高い遺跡である。また、馬毛島の椎ノ木遺跡では、弥生時代終末とされる土坑墓が報告されている。仰臥で成人人骨が埋葬されており、その形質は広田遺跡に近いとされている。副葬品はツノガイや貝小玉と水晶が出土している。

甌島では、薩摩川内市里町の中町馬場遺跡で、2体の人骨が発見され埋葬跡とされている。3号人骨は再葬墓の可能性を指摘しており、免田式土器が供献されていたことから、弥生時代後期とされる。6号人骨は配石を伴って発見されており、層位の検討から弥生時代前期まで遡る可能性があり、再葬などの行為を想定している。薩摩川内市下甌町の大原・宮園遺跡では、3個体の壺で構成された壺棺が報告されている。本棺には乳幼児とされる人骨が1体埋葬されている。周辺の出土の甕は、中津野式土器と考えられ、弥生時代後期から古墳時代初頭と考えられる。

## 7 時期別の考察とまとめ

湯場崎 2021 で集成した3形態(①土坑墓, ②横口式土坑墓, ③周溝墓)と本稿の5形態(④覆石墓・葺石墓・配石墓, ⑤壺棺墓・甕棺墓, ⑥箱式石棺墓, ⑦木棺墓, ⑧支石墓)の墓の集成から、各時期別(第8図)の状況をまとめていきたい。

弥生時代～古墳時代初頭の墓は、鹿児島県本土では257基確認できた。内訳は、土坑墓154基、横口式土坑墓6基、周溝墓36基、覆石墓・葺石墓・配石墓18基、壺棺墓・甕棺墓26基、石棺墓4基、木棺墓11基、支石墓2基である。

弥生時代前期では、白寿遺跡の壺棺墓がある。出土した土器から、前期末と考えられている。中町馬場遺跡の6号人骨は再葬墓の可能性を指摘しているが、時期に関しては、はっきりとしない部分がある。北部九州では、前期から甕棺が多くあるが、鹿児島県では前期に遡るものは少ない。

弥生時代中期になると薩摩半島西部田布施平野で、甕

棺墓と併せて、支石墓が出現する。下小路遺跡は須玖式土器で、中期後葉とされる。北薩地域では、土坑墓・覆石墓が出現する。主に入来式土器の中期前葉から中葉である。南薩地域では、立石が出現しているが、墓の形態は、はっきりとしない。大隅半島では、京ノ峯遺跡と永吉天神段遺跡で周溝墓が出現する。主に入来式土器から山之口式土器の時期で、中期中葉から後葉である。また、永吉天神段遺跡では、形状が数種類に分かれる土坑墓や横口式土坑墓が出現する。

弥生時代後期から古墳時代初頭になると田布施平野では、阿多貝塚のみとなる。北薩地域では、堂前遺跡で覆石墓など、前畑遺跡で土坑墓、木棺墓、石棺墓が出現する。甌島では再葬墓と考えられている人骨が出土している。主に免田式土器の時期で、弥生時代後期から終末である。南薩地域では、堂園遺跡A地点で土坑墓、南摺ヶ浜遺跡で土坑墓と甕棺・壺棺墓、周溝墓、成川遺跡で甕棺・壺棺墓が出現する。主に中津野式土器の時期で、弥生時代終末から古墳時代初頭・前期である。大隅半島ではこの時期の墓の報告はない。

このように前期末に貝の交易から田布施平野一帯に入ってきた甕棺・壺棺墓は、中期から後期にかけて、南薩地域一帯に広がり、一部他地域へも広がりながら、南摺ヶ浜遺跡や成川遺跡で発見される古墳時代の甕棺・壺棺墓に続くものと推定される。南摺ヶ浜遺跡で報告のある周溝墓は、大隅半島の影響なのか、他地域からの影響なのかは不明である。

北薩地域では、中期は土坑墓(下鶴遺跡では木棺墓の可能性のある土坑墓もある)を主としながら、後期になり、肥後地域の影響を受けながら、覆石墓や石棺墓が多くなり、地下式板積石室墓などの古墳時代の墓制へとつながるものと推定される。

大隅半島では今のところ甕棺・壺棺墓はないため、田布施平野や北部九州の影響は少なく、東九州や瀬戸内などの影響を受けている可能性がある。周溝墓は、周溝が方形のものが少なく、他地域で見られる家族墓的な要素は見られない。むしろ階層的な要素も見られるので、他地域の墓制を受け入れつつも、在地的な墓制の可能性はある。横口式土坑墓は北部九州での報告例が多いため、薩摩半島西部からでなく、直接的な影響も考えられる。なお、横口式土坑墓はその形状が古墳時代の地下式横穴墓に類似するため、その初源ともとれるが、地下式横穴墓は高塚墳の主体部や北部九州の横穴石室墓などの影響を受けたものと思われ、直接的なつながりはないと考えている。

## 8 あとがき

岩永勇亮氏・東和幸氏にはご教示いただいた。その他、協力していただいた方々に感謝して終わりにしたい。



弥生時代前期



弥生時代中期



弥生時代後期～古墳時代初頭

凡例

- 土坑墓
- △ 横口式土坑墓
- 周溝墓
- ★ 甕棺・壺棺
- ▼ 覆石墓・配石墓・葺石土坑墓
- 木棺墓
- 石棺墓
- ▲ 支石墓
- ▽ 立石
- ◎ 再葬

第 8 図 弥生時代時期別の墓坑の種類及び位置図

第1表 覆石墓・葦石墓・配石墓

遺跡名	所在地	遺構名	時期	形状	軸	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土土器	備考
堂前遺跡	出水市 高尾野町	22号墳	弥生時代中期	長方形	東南-西南	142	67	不明	山之口式	山之口式長頸壺
		26号墳	弥生時代中期	不明	不明	不明	不明	不明	須玖式	須玖式長頸壺片
		27号墳	弥生時代中期	円形	不明	不明	不明	不明	堀込なし	—
		28号墳	弥生時代中期	楕円形	東西	250	80	25	—	須玖式土器壺・報告書では葦石土坑墓
		31号墳	弥生時代中期	不明	北南	260	145	浅い	須玖式	須玖式土器
		32号墳	弥生時代中期	不定楕円形	北西-南東	170	40	浅い	山之口式	山之口式長頸壺
		34号墳	弥生時代中期	長楕円形	北西-南東	100	45	不明	須玖式	須玖式土器
		12号墳	弥生時代後期	不明	不明	150	88	堀込なし	—	弥生土器小片・報告書では配石墓
		21号墳	弥生時代後期	楕円形	東西	180	118	浅い	—	弥生土器小片
		25号墳	弥生時代後期	不定楕円形	北西-南東	205	110	堀込なし	—	—
		30号墳	弥生時代後期	不定楕円形	北東-南西	170	100	浅い	免田式	免田式土器
		35号墳	弥生時代後期	長楕円形	北西-南東	112	75	25	免田式	須玖式土器・免田式土器
		38号墳	弥生時代後期	不明	不明	160	50	25	—	—
		24号墳	弥生時代終末	不定楕円形	北西-南東	103	92	27	—	—
		33号墳	弥生時代終末	不定楕円形	円形	230	70	浅い	成川式	成川式土器
		36号墳	弥生時代終末	不明	不明	130	120	不明	成川式	成川式土器
		37号墳	弥生時代終末	長楕円形	北西-南東	165	90	30	成川式	成川式土器
		39号墳	弥生時代終末	隅丸長方形	北西-南東	198	110	50	成川式	報告書では配石墓

第2表 壘棺墓・壘棺墓 集成表

遺跡名	所在地	遺構名	時期	形状	軸	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土土器	伴う遺構	備考
下鶴遺跡	伊佐市大口	土坑16号(壘棺)	弥生時代中期	円形	北南	72	69	26	入束	—	壘(口縁部なし)
白寿遺跡	日置市吹上町	壘棺	弥生時代前期	不正円形	東西?	不明	不明	不明	—	—	壘(高さ47.5cm・孔有)鉢(蓋転用・高さ19cm)
	日置市吹上町	壘棺	弥生時代中期	楕円形?	不明	不明	不明	不明	—	—	壘(高さ53cm)・蓋は板と報告
入束遺跡	日置市吹上町	合口壘棺	弥生時代中期	不明	不明	不明	不明	不明	—	—	可能性の指摘
下小路遺跡	南さつま市金峰町	合口壘棺	弥生時代中期	不定形	東西	230	113	60	須久式	—	上壘(口径49cm・高さ61.5cm・胴径53cm) 下壘(口径49cm・高さ96cm・胴径69cm) ・人骨・貝輪
南瀬ヶ浜	指宿市	1号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	90	70	60	中津野式	立石	壘(完形)・高坏(坏部蓋転用)
	指宿市	2号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	80	50	40	中津野式	—	壘(口縁部打欠)・高坏(坏部蓋転用)
	指宿市	3号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	北東-南西	60	60	11	中津野式	—	壘(口縁部欠損)・高坏(坏部蓋転用)
	指宿市	4号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	70	50	30	中津野式	立石	壘(口縁部欠損・底部穿孔)・埴
	指宿市	5号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	長方形	東西	70	60	30	東原式	立石	壘(口縁部欠損)・壘
	指宿市	6号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	60	50	30	中津野式	立石	壘(口縁部欠損)
	指宿市	7号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	80	60	30	中津野式	—	壘(胴部穿孔)・高坏(坏部蓋転用)
	指宿市	8号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	北東-南西	95	85	20	東原式	—	壘・壘(蓋転用)
	指宿市	9号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	北東-南西	80	60	50	中津野式	立石	壘(口縁部欠損)・壘(蓋転用・胴部穿孔)
	指宿市	10号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	北東-南西	70	60	20	中津野式	立石	壘(口縁部欠損)・高坏(坏部蓋転用)
	指宿市	11号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	80	70	40	中津野式	立石	壘(口縁部欠損・穿孔有)・壘(蓋転用)
	指宿市	12号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	—	—	—	—	—	中津野式	—	壘(口縁部欠損)
	指宿市	13号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	100	90	30	東原式	—	壘(口縁部欠損・穿孔有)・高坏(坏部蓋転用)
	指宿市	14号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	円形	東西	60	60	30	中津野式	—	壘
	指宿市	15号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	90	60	30	中津野式	—	壘・壘(蓋転用)
	指宿市	16号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	70	50	30	中津野式	—	壘(口縁部欠損)・壘
指宿市	1号壘棺墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	90	70	64	中津野式	—	壘・壘(蓋転用)	
成川遺跡	指宿市	壘棺	弥生時代後期?	不明	不明	不明	不明	不明	—	—	河口・旭・最所1976から
尾ヶ原遺跡	南さつま市金峰町	合口壘棺墓	弥生時代中期	楕円形	南北	53	40	23	須久式・黒髪式	—	須久式・黒髪式
阿多貝塚	南さつま市金峰町	1号壘棺	弥生時代後期~古墳時代初頭	楕円形	北東-南西	210	170	60	中津野式	—	壘
	南さつま市金峰町	2号壘棺墓	弥生時代後期~古墳時代初頭	隅丸長方形 楕円形	北東-南西 北西-南東	260 140	250 100	10 10	中津野式 中津野式	柱穴	壘・壘、二段目が楕円形

第3表 石棺墓 集成表

遺跡名	所在地	遺構名	時期	形状	軸	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土土器	備考
前畑遺跡	伊佐市菱刈町	5号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	140	90	20	—	小児用可能性有り
	伊佐市菱刈町	6号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	100	90	20	—	小児用可能性有り
	伊佐市菱刈町	12号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	略正方形	東西	95	90	22	—	小児用可能性有り
	伊佐市菱刈町	22号土坑墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	273	273	50	免田式	鉄鉢・長頸壺

第4表 木棺墓 集成表

遺跡名	所在地	遺構名	時期	形状	軸	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	出土土器	備考
高橋遺跡	南さつま市金峰町	SK03	弥生時代中期	隅丸長方形	東西	162	108	44	—	小口板痕・側板痕・弥生土器小片
高橋遺跡	南さつま市金峰町	SK04	弥生時代中期	長方形	東西	156	90	45	—	小口板痕・側板痕・弥生土器小片
高橋遺跡	南さつま市金峰町	SK07	弥生時代中期	隅丸長方形	東西	175	124	21	—	小口板痕・側板痕・弥生土器小片
前畑遺跡	伊佐市菱刈町	1号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	略長方形	東西	290	200	65	免田式	覆石を伴う・壘(袋状口縁)・壘(松木園式?)
前畑遺跡	伊佐市菱刈町	2号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	略長方形	北西-南東	310	235	20	—	—
前畑遺跡	伊佐市菱刈町	7号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	長楕円形	東西	247	147	40	—	板石・角鏃
前畑遺跡	伊佐市菱刈町	11号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	略長方形	東西	267	139	32	—	小口・側板痕の掘込、組合箱式木棺墓の可能性指摘
前畑遺跡	伊佐市菱刈町	16号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	長楕円形	北西-南東	240	155	30	免田式	小口・側板痕、組合箱式木棺墓の指摘・壘・壘
前畑遺跡	伊佐市菱刈町	18号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	246	143	48	—	—
前畑遺跡	伊佐市菱刈町	20号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	東西	310	200	30	ボネ口縁	壘(ボネ口縁部)・高坏
前畑遺跡	伊佐市菱刈町	21号土壘墓	弥生時代後期~古墳初頭	楕円形	北西-南東	265	173	45	免田式	長頸壺

《註》

- 1 本土において、覆石墓・葺石墓・配石墓が報告されているのは、堂前遺跡のみであるので、1つの形態としてまとめて集成している。
- 2 近年、地下式板石積石室墓は板石積石棺墓が適切との論考（藤井2009）もあるが、各報告書とおりに地下式板石積石室墓を使用している。
- 3 土器の年代観は、中園1997と中村1987を主に参考している。

《引用・参考文献》

- 河口貞徳・上村俊雄1971「9. 別府原古墳・堂前古墳調査-地下式板石積石室について-」『河口貞徳先生古希記念著作集』下巻 河口貞徳先生古希記念著作集刊行会1983
- 河口貞徳・旭慶男・最所大輔 1976「下小路遺跡」『鹿児島考古』11号 鹿児島県考古学会
- 河口貞徳 1976「入来遺跡調査概要-支石墓研究の一環として-」『鹿児島考古』11号 鹿児島県考古学会
- 河口貞徳 1983「白寿の壺棺」『鹿児島考古』第17号 鹿児島県考古学会
- 河口貞徳 1988『日本古代の遺跡 38 鹿児島』中園聡1997「九州南部地域弥生土器編年」『人類学研究』9 人類史研究会
- 藤井大祐 2009「古墳時代薩摩地方における石棺墓の展開と特質 -板石積石棺墓を中心に-」『薩摩加世田 奥山古墳の研究』P63~80 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 No. 4
- 中園聡 2006「第3章弥生時代 第4節祭りと葬送」『先史・古代の鹿子島 通史編』鹿児島県教育委員会
- 中村直子 1987「成川式土器再考」『鹿大考古』第6号 鹿児島大学法文学部考古学研究室
- 中村直子 2000「第二編 先史時代の山川」『山川町誌』増補版
- 西健一郎 2002「肥後から見た薩摩-弥生時代と古墳時代の墳墓から見る-」『鹿児島考古』第36号
- 湯場崎辰巳 2018「鹿児島県大隅半島における弥生時代中期の堅穴住居跡の平面構造について」『縄文の森から』第10号 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 湯場崎辰巳 2021「鹿児島県下における弥生時代～古墳時代初頭の3種類の墓について-土坑墓、横口式土坑墓、周溝墓の集成と考察-」南九州縄文通信No.23 前迫亮一代表選歴記念論集『原点回帰・南の考古学』南九州縄文研究会
- 大口市教育委員会 1986『瀬ノ上遺跡・平田遺跡』「大口市埋蔵文化財発掘調査報告書」(5)
- 鹿児島県教育委員会  
1977『指辺・横峯・中ノ峯・上焼田遺跡』「鹿児島県埋蔵文化財調査報告書」(5)
- 1983『成川遺跡』「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書」(24)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
2006『尾ヶ原遺跡』「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書」(98)
- 2007『堂園遺跡A地点、古殿諏訪陣跡、折戸平遺跡、山神迫遺跡』「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書」(108)
- 2009『南摺ヶ浜遺跡』「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書」(144)
- 2011『下鶴遺跡』「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書」(163)
- 2014『船迫遺跡・高吉B遺跡』「鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書」(180)
- 鹿児島国際大学 2008『長崎県 宇久松原遺跡 鹿児島県 高橋遺跡』「鹿児島国際大学考古学ミュージアム調査研究報告」第5集
- 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター2020『永吉天神段遺跡5 第2地点-3 縄文晩期・弥生・古墳時代編』「公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書」(27)
- 金峰町教育委員会 1978『阿多貝塚』「金峰町埋蔵文化財調査報告書(1)」
- 里村教育委員会 2004『中町馬場遺跡II』「里村埋蔵文化財発掘調査報告書」(2)
- 下飯村教育委員会 1974『大原・宮菌遺跡』
- 高尾野町教育委員会 1973『鹿児島県堂前遺跡の調査概要』
- 西之表市教育委員会 1980『馬毛島埋葬址-鹿児島県西之表市馬毛島椎ノ木遺跡-』
- 菱刈町教育委員会 1983『前畑遺跡』「菱刈町埋蔵文化財発掘調査報告書」(2)
- 吹上郷土誌編纂委員会 2003「通史編1 自然 考古 古代中世」『吹上郷土史 通史編1』吹上町文化庁 1973『成川遺跡』「埋蔵文化財発掘調査報告書」第7
- 枕崎市教育委員会 1981『松之尾遺跡』「枕崎市松之尾土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」(1)
- 松山町教育委員会 1993『京ノ峯遺跡』「松山町埋蔵文化財発掘調査報告書」7